

- 問1 日本海側の地域において、冬に降水量（降雪量）が多くなるメカニズムについて述べた次の文章の空欄にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものはどれですか。「冬にシベリア側から吹く冷たく乾いた（X）が、（Y）を渡る際に水蒸気を含み、山々にぶつかると雪や雨を降らせる。」（2018年 長崎県公立入試 類似）
1. X：季節風 Y：日本海 2. X：偏西風 Y：東シナ海 3. X：貿易風 Y：太平洋 4. X：季節風 Y：オホーツク海
- 問2 ある都市の月別降水量を示した資料において、富山市のように12月や1月といった冬の時期の数値が、夏場と同等以上に高く突き出ている特徴を持つ気候区分を何といいますか。（2018年 埼玉県公立入試 類似）
1. 太平洋側の気候 2. 日本海側の気候 3. 瀬戸内の気候 4. 中央高地の気候
- 問3 標高100メートルの地点Pから、標高約150メートル弱の地点Qを直線で結んだ地形図がある。この直線上で標高150メートルの等高線を二度通過し、その二つの等高線の間には150メートルより高い地点が存在する場合、描かれる断面図の形状として最も適切なものはどれか。（2021年 奈良公立入試 類似）
1. 地点Pから標高が上昇し、150メートル以上のピークに達した後、緩やかに降下して地点Qに至る山状の曲線 2. 地点Pから地点Qにかけて標高が一定の割合で上がり続ける、起伏のない一直線の斜面 3. 地点Pから一度150メートルまで上昇した後、再び100メートルまで急激に落ち込むV字型の谷の形状 4. 地点Pから地点Qまで、標高の変化がほとんど見られない水平な直線
- 問4 日本の地理学習において、災害への備えを学ぶ際、堤防などの整備によって災害を未然に防ぐ「防災」という言葉と並んで、災害の発生を前提とした上で、その被害をできる限り少なくすることを目的とした「（ ）災」という用語が重要視されています。この空欄にあてはまる、被害の最小化を目指す考え方として適切な用語を選択してください。（2020年 沖縄公立入試 類似）
1. 減災 2. 震災 3. 共助 4. 公助
- 問5 自然災害が発生した際に、被害が及ぶと予想される区域や程度、さらには避難場所や避難経路などの情報を地図上にまとめたものを何と称するか。（2020年 佐賀公立入試 類似）
1. ハザードマップ 2. 等高線地形図 3. 土地利用図 4. 都市計画図
- 問6 日本の多くの都市で見られる、河口付近の標高が零メートルに近い平坦な地域における防災上の課題として、地形的特徴を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 福井公立入試 類似）
1. 標高が低いため、台風による高潮や大雨の際に河川が氾濫すると、広範囲で浸水被害が発生しやすい。 2. 内陸の盆地のような地形で熱がこもりやすいため、夏場に極端な高温となるヒートアイランド現象が起きやすい。 3. 山の麓に広がる扇状地のような地形であり、水はけが良すぎるために生活水の確保が困難になりやすい。 4. 標高が高く急峻な斜面が多いため、地震の際に大規模な土砂崩れや山崩れが発生する危険性が非常に高い。
- 問7 平地が少ない都市で行われる「山地造成と海面埋め立て」による開発手法について、この手法で生まれた土地の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2023年 石川公立入試 類似）
1. 山地側：ニュータウン（住宅地）／海側：人工島（市街地・港湾施設） 2. 山地側：工業団地／海側：森林公園 3. 山地側：歴史的建造物の保存地区／海側：大規模な水田 4. 山地側：採石場／海側：干拓による大規模農場
- 問8 日本の多くの県庁所在地は、河川の河口部に形成された平坦な土地に位置しています。この地形の成り立ちや特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 山形公立入試 類似）
1. 川が海や湖に流れ込む場所に細かな土砂が積み重なってきた、標高が低く水はけの悪い土地である。 2. 川が山地から平地に出る場所に大きな岩石や砂が積み重なってきた、緩やかな傾斜のある土地である。 3. 河川の浸食作用や土地の隆起によって形成された、周囲よりも一段高くなっている平坦な土地である。 4. 火山の噴火によって噴出物が周囲に積み重なり、中央部が大きくくぼんで形成された土地である。
- 問9 日本の地形と季節風が降水量に与える影響について説明した文として、最も適切なものはどれか。（2017年 徳島公立入試 類似）
1. 夏は太平洋からの湿った南東の季節風が、日本の山脈にぶつかると太平洋側の降水量が多くなる。 2. 冬は太平洋からの乾燥した南東の季節風が、日本の山脈を越えることで太平洋側の降水量が多くなる。 3. 夏は大陸からの乾燥した北西の季節風が、日本海で水分を蓄えることで日本海側の降水量が多くなる。 4. 冬は大陸からの湿った北西の季節風が、日本の山脈にぶつかると太平洋側の降水量が多くなる。
- 問10 2013年の統計において、養殖こんぶの収穫量は北海道（約2.5万トン）に次いで、岩手県（約9600トン）が全国2位、宮城県（約600トン）が3位となっています。この背景には、岩手県から宮城県にかけて広がる、複雑に入り組んだ地形を活用した養殖業の発展があります。この海岸地域の名称として最も適切なものはどれですか。（2018年 滋賀公立入試 類似）
1. 三陸海岸 2. 九十九里浜 3. 湘南海岸 4. 宗谷岬
- 問11 河川の近くに住んでいる中学生が、地域の防災について話し合っています。大雨による浸水被害を想定した、日頃からの具体的な備えとして最も適切なものはどれか。（2018年 佐賀公立入試 類似）
1. ハザードマップを活用して被害予測範囲や避難場所、避難経路を事前に確認し、非常食や飲料水を準備しておく。 2. 河川には高い堤防が整備されているため、浸水のリスクはないと考え、避難場所の確認よりも家財道具の保護を優先する。 3. 実際に災害が発生し、避難勧告などが出された後に、インターネットやテレビで初めて避難場所の所在地を検索する。 4. 避難場所は自治体が指定しているため、事前の確認は行わずに、災害時には近くにある最も大きな公共施設へ向かう。
- 問12 日本の海岸線の特徴を説明した資料において、山地が海に面し、複雑な凹凸を持つ海岸地形の形成理由を説明したものとして、正しい記述を選択してください。（2020年 高知公立入試 類似）
1. 地殻変動による土地の沈降や海面上昇によって、山地の谷の部分に海水が入り込んだ。 2. 河川から運ばれてきた大量の土砂が河口付近に堆積し、平坦な土地が海へ突き出した。 3. 沿岸流によって運ばれた砂が湾の入り口をふさぐように長くたまり、細長い地形を作った。 4. 浅い海を堤防で囲い込み、ポンプで海水を排水することで陸地へと造り替えた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 X：季節風 Y：日本海	日本の気候は、季節によって吹く方向が変わる「季節風」の影響を強く受けます。冬は北西のシベリア側から、夏は南東の太平洋側から吹くのが特徴です。特に冬の季節風は「日本海」の上空を通過する際に水分を吸収するため、日本海側の地域に世界的な豪雪地帯を形成する要因となります。偏西風は日本の上空を一年中西から東へ吹いている風であり、季節風とは区別されます。
問2	答え 2 日本海側の気候	富山市は日本海側の気候を代表する地点です。この気候区では、冬の季節風がもたらす雪や雨の影響により、他の地域と比べて冬季の降水量（降雪量を含む）が非常に多くなるという独自のグラフ形状を示します。これに対し、太平洋側では冬に晴天が続いて乾燥するため、冬の降水量は極めて少なくなります。
問3	答え 1 地点Pから標高が上昇し、150メートル以上のピークに達した後、緩やかに降下して地点Qに至る山状の曲線	断面図は直線上の標高の変化を忠実に再現します。150メートルの等高線を二度またぎ、その中間にさらに高い地点があるということは、その区間が山頂や尾根のような盛り上がりになっていることを意味します。したがって、100メートルの地点Pから標高が上がり、ピークを経てから再び150メートル付近の地点Qへと下がる曲線が正解となります。
問4	答え 1 減災	大規模な自然災害を100%防ぎきすることは困難であるという認識に基づき、災害が発生した際に生じる被害を最小限に抑えることに重点を置く考え方です。ハザードマップの活用や避難訓練、家具の固定といった事前の備えが、この取り組みの具体例となります。
問5	答え 1 ハザードマップ	自然災害による被害を最小限に抑える「減災」を目的に作成される。浸水想定区域や土砂災害警戒区域などの予測情報と、避難所などの防災情報を住民に周知するために、多くの自治体で作成・配布されている。
問6	答え 1 標高が低い場合、台風による高潮や大雨の際に河川が氾濫すると、広範囲で浸水被害が発生しやすい。	河口付近に位置する平坦な低地は、河川が運んできた土砂が堆積して形成されています。こうした地域は標高が極めて低く、海面に近い「ゼロメートル地帯」となることもあります。そのため、大雨による河川の増水や、台風に伴う高潮の影響を直接受けやすく、一度浸水すると水が引きにくいという防災上の弱点を持っています。
問7	答え 1 山地側：ニュータウン（住宅地）／ 海側：人工島（市街地・港湾施設）	山地を削って得られた平坦な土地は「ニュータウン」として市街地化され、その土砂で海を埋め立ててできた人工島は、港湾機能、工業用地、あるいは新たな市街地として利用されます。単なる土砂の処分ではなく、両方の場所を新しい都市空間として活用するのがこの手法の特徴です。
問8	答え 1 川が海や湖に流れ込む場所に細かな土砂が積み重なってきた、標高が低く水はけの悪い土地である。	三角洲は河口付近に土砂が堆積してできるため、非常に平坦で標高が低いのが特徴です。このため、古くから水田として利用される一方で、大雨による洪水や地震時の液状化、高潮などの自然災害の影響を受けやすいという側面も持っています。他の選択肢は、順に扇状地、台地、カルデラの説明です。
問9	答え 1 夏は太平洋からの湿った南東の季節風が、日本の山脈にぶつかることで太平洋側の降水量が多くなる。	季節風は、山脈によって遮られることでその地域の天候を左右する。夏は太平洋から湿気を帯びた南東の季節風が吹き、列島の中央を走る山脈にぶつかることで、太平洋側で雨が降りやすくなる。冬は大陸からの北西の季節風が日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、日本海側の山地にぶつかることで大雪や雨をもたらす、山脈を越えた太平洋側では乾燥した晴天が多くなる。
問10	答え 1 三陸海岸	岩手県から宮城県北部にかけての三陸海岸は、日本を代表するリアス海岸として知られています。深い入り江が連続するこの地形は、外洋の荒波を遮るため波が穏やかであり、こんぶやわかめ、カキといった海藻や魚介類の養殖に非常に適しています。統計においても、この地形的利点を活かした岩手県や宮城県が高い生産量を示しています。
問11	答え 1 ハザードマップを活用して被害予測範囲や避難場所、避難経路を事前に確認し、非常食や飲料水を準備しておく。	自然災害による被害を最小限に抑えるためには、行政が配布しているハザードマップを確認し、自分の住む場所の危険度や安全な避難経路を把握しておくことが重要です。また、ライフラインの遮断を想定し、非常食や飲料水の備蓄といった家庭での自助努力も求められます。災害が起きてから避難場所を探したり、堤防があるからと過信したりすることは、適切な避難行動を妨げる原因となります。
問12	答え 1 地殻変動による土地の沈降や海面上昇によって、山地の谷の部分に海水が入り込んだ。	リアス海岸のような複雑な海岸線は「沈水」という過程を経て作られます。もともと陸地だった起伏の激しい山地が、土地の沈降や氷河期が終わった後の海面上昇によって海の下に沈むことで、かつての谷筋が深い入り江となります。これに対し、土砂が堆積してできるのは三角洲、砂がたまってできるのは砂州、人工的に陸地を作るのは干拓であり、リアス海岸の形成過程とは異なります。